

2019年度は、8大学から26名の学生が参加しました

【内訳】(大学名・順不同)

- 駒澤大学、千葉大学、日本大学、法政大学、明治大学、立教大学、関東学院大学、東京家政大学
- 1年生(1名)、2年生(4名)、3年生(17名)、4年生(2名)、大学院生(2名)
- 3大学と協定書を取り交わしています。

毎年、受入団体からインターンシップをした学生へ

「君の今とこれからのキラリと光るよさ」を贈る言葉としていただいています。
成果物として毎年「実施報告書」を作成し、学生と受入団体、大学へ贈ります。



2019年度に参加した学生の感想

いつになっても人と人のやり取り、つながりは大事なのだということを実感しました。多くの人と出会え、また、働くこととはどんなことをより考えさせられるインターンシップでした。

自分にとって働くこととは何か、これから自分なりの答えを見つけたいです。

(家政学部1年)

働くことは辛いことという固定概念を覆すインターンシップになったと考えています。確かに仕事をしていく上で大変なことがたくさんあることも職員の方々からお話を聞いて分かりました。しかしそれ以上に、仕事は誰かのためにみんなで助け合って補いあってやることだと実感しました。

また私はもともと人見知りだったのですが、このような経験をさせていただいて、以前よりも自ら意見や質問を相手に積極的に伝えられるようになったと感じています。

(経済学部2年)



私は働くとは利益を出すことが大切だと思っていました。もちろん利益を出さなければ活動を続けることはできませんが、会社への利益を第一目標としない働き方もあるのだと思いました。社会を良くする活動をしながら生活するという、社会に貢献した生き方を考えることができました。

(コミュニティ福祉学部3年)

なんととっても協同組合について学びを深められたことがとても良かったと感じています。人から聞いた話やネットの情報だけでは分からない業務内容や現場の雰囲気、働いている人のリアルな思いや人のあたたかさなどたくさんの発見をすることができたのでとても良かったです。

具体的には地域協議会に参加させてもらい、みなさんが地域をよりよくするためにどうしたらよいか議論している姿を見て、これが協同ということかと感じました。

利益を追求せず、地域の課題解決に取り組み、お互いを助け合うという理念を持ち、これは株式会社とは違った良さであると思いました。 (政治経済学部 3年)

普段大学では出会えない、違う分野を学んでいる人たちとこのインターンシップに参加できて、大学だけでは気づけないような違う視点からの意見をたくさん聞いて本当に刺激的な5日間でした！ありがとうございました！

(生物資源科学部 3年)



私は、将来仕事をするにあたって求める条件として、今までは職場環境・給料・人間関係・福利厚生が整っていればいいと思っていました。しかし今回協同組合のインターンシップに参加して、今までの条件に加えて誰かのためになるような働き方や働いている自分とそれを利用する方が寄り添っていけるような関係性が築ける職業を選びたいと思いました。

人のために働いているという実感を持って仕事をするのがやりがいにもつながるのではないかと今回のインターンシップで感じることができました。 (家政学部 3年)



「人は違って当たり前だということ」本来当たり前のことであるはずなのに、現代社会では忘れられがちで、それによって他人と違うことに悩んだり生きづらさを感じる人がいるのではないかと改めて考えるきっかけとなりました。

また“個性がある=人とどこか違う変わっている人”という認識が社会の共通認識であるように感じました。そもそも人はそれぞれ違って当たり前で、個性とは人と比べて相対的に測るものではないのではないかと考えるようになりました。

インターンシップに参加する前はこのような考えを巡らせることもなかったので、この気づきは大きな収穫であると感じています。 (人間環境学部 4年)